

忘れる以前に覚えていない？

どこの病院でも「もの忘れ外来」は珍しくなくなりました。当院でも新患のうち4人に1人は認知症ないし器質性(脳に明らかな原因がある)精神障害の患者様です。年を重ねていくと、誰でも「ど忘れ」は増えていきます。健康な人のど忘れは「健忘」といいます。その健忘が病的に増えると「物忘れがひどくなった」といいます。その状態が認知症です。認知症にも様々なタイプがあり、表現型(どういった症状が見られるか)はそれぞれ異なります。共通して見られるのが「記憶障害」で、初期に記憶障害が目立たない認知症はあっても、進んだ先に記憶障害がない認知症はありません。さて、慣用的に「物忘れ」と言うため、大切なこともすぐ忘れられるとイラッとしても、物は見方、認知症の本質的な症状は、「新たな記憶を増やせない」ことです。言ったことは「言っていない」、聞いたことは「聞いていない」、置いた場所は「覚えていない(あなたが盗ったんでしょ!)」。忘れる以前にそもそも覚えていないと理解すれば、少し優しくなれそうですか？